

# コパノリンデンの19



牡 2019年3月21日生 | 鹿毛 | 美浦・大和田成厩舎 | ヤナガワ牧場生産

一口価格： **11,000円** ※2021年保険料 352円 募集口数：1000口【競走馬出資金総額 1,100万円】



## ● 育成牧場コメント（門別牧場・門別氏）

鞍付け馴致から坂路調教に至るまで、痛い「い」の字も見せないで、丈夫なタイプといえるでしょう。ただ前脚の蹄の形には左右で差があるので、そこだけは前鉄を履かせて装蹄などでバランスに気を付けて調整しています。週1～2回の坂路調教では苦しいそぶりを見せずに駆け上がっています。操縦性が高く乗りやすいところが本馬の長所で、体が柔らかくて使い方もいいんです。血統的にはダート色が強く、距離は長いところが良さそう。1800mくらいがベストのように感じています。雄大な馬格で仕上がりが早い方ではない可能性がありますが、長い目で見てもらえばどんどんしっかりしてくると思います。大きな期待に応えられるような走りを見せてほしいですね。

## ● 治郎丸敬之の馬体診断

父エスケンデレヤは9ハロンのG1レース（ウッドメモリアルS）を勝っているように、アメリカ血統の種牡馬としては、馬体全体が筋骨隆々ですんぐりむっくりしていない、窮屈なところが少ないタイプです。胸部には十分な長さがあり、首差しの長さや角度も理想的で、2000m前後の距離がベストです。ケンタッキーダービーなどのクラシックレースに出走することができていれば、1冠くらいは獲れていたかもしれませんがね。もちろん付くべきところにしっかりと筋肉は付いているのですが、単なるダートの短距離馬の馬体ではないということ。そのような観点で見ると、コパノリンデンの19をパッと見た瞬間に、父にも増して、実に伸びのある馬体だと感じました。正直に言うと、馬体を先に見て後から血統を知ったのですが、手脚がスラリと長く、胸部にも伸びがあり、決して重い筋肉が付いていない、血統イメージとは異なるタイプの馬体を有しています。芝のレースでも走るのではと思わせられるほど。馬体を大きく使って走り、距離が延びて良さが出るタイプでしょう。ひとつだけ課題を挙げると、頭の位置が少し高いので、スラリと長い首を上手に使うと走れるようになると、ゴール前のもうひとつ伸びにつながるはずですね。